

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900345		
法人名	社会福祉法人 洗心福祉会		
事業所名	グループホーム 真珠荘		
所在地	志摩市阿児町鶴方3503-10		
自己評価作成日	平成 24 年 7 月 29 日	評価結果市町提出日	平成 24 年 10 月 12 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2472900345-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2472900345-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 8 月 20 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

保養所を利用した施設で、各居室からはたくさんの緑やゴルフ場など見ることが出来る環境の下、ハード面では段差や階段がたくさん残されている施設で、それも生活の一部として許容し、一方では生活リハビリにも繋がっている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

従来の保養所の施設にエレベーターやスロープを設置して、老人介護に適した設備に改装しており、微妙な段差などは無理に解消せず、生活の中の一部としてリハビリに役立っている。副施設長が管理している3つの事業所のほかに、この地域にある同一法人の事業所との交流を通じて職員レベルを上げるのに役立っている。現在の社会状況は、利用者から施設側が選ばれる立場に変化していることを重視し、設立当初からの理念の一つでもある「個性を活かした」介護により重点をおいた支援をしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬意を持って、個性を生かし、ぼちぼちと」を独自の理念とし、入居者様個人の生活暦を大切にして施設での生活を支援している。	理念はグループホーム設立時からのものであり、合同会議やケア会議などで常に職員と話し合っている。利用者ペースで進めていくことを基本に、その人の状態に合わせた支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへ出かけたり、週末には朝食用のパンの購入に出かけたり、希望があればスーパーへの買い物など地域の方々と交流できるように支援している。	自治会には加入しており、自治会合同の草刈りや避難訓練などに参加をしている。夏祭りや催し物を行う際には近隣へ案内状を出すなどして参加呼びかけをしている。今後は保育園との交流も予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 <a href="http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2472900345-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2472900345-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>	志摩市で開催される「ふくし祭り」に法人として、協力し市民の方々の相談や提案する機会をもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や避難訓練の実施状況の報告を行い、地域の方々から意見や提案を頂き参考にさせていただいている。	基本的な日時を決めて、2か月に一度会議を開催している。行政担当者や民生委員、老友会、自治会長など幅広い人材の参加により、その時の問題点を相談したりされたりと、会議をうまく活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の行う避難訓練への参加や、事業所抱える質問など問いかけて、問題解決に協力していただいている。	他県からの転入者受け入れについて、運営推進会議を活用して相談したり、認定申請更新などの業務を通じて、日頃から市との連携、協力関係に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の業務の中で、身体拘束について学ぶ機会を作り、ケアに取り組んでいる。玄関の施錠は行っているが、いつでも一緒に外出できるように支援している。	身体拘束については日頃の業務中に口頭で伝えている。身体拘束に関する資料はあるが、定期的な勉強会は実施していない。	マンネリ防止の意味からも年間の研修計画により、職員が学ぶ機会を多く作り、ヒヤリハット等もきちんと捉えた対応をすることで、更なるレベルアップを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での会議で事例検討をしながら、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されているご利用者様を通して、学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書と重要事項説明書を照らし合わせながら、質問をお聞きしながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様より頂いたご意見は、会議で提案し職員みんなで解決できるように検討している。	遠方の家族には「お便り」で日頃の生活状態をよく伝えている。また、面会時には居室でお茶を飲みながらじっくり話をする機会を設け、家族の意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の合同会議や全体会議で意見や要望を聞き、検討を行っている。また、年に1～2回面談を実施している。	今回は自己評価も職員全員で取り組み、意見集約をサブリーダーが行いまとめている。車いす用トイレが狭かったが、職員意見の提案としてトイレ改装が完成し、利用者の利便向上に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人諸規定(給与・服務規程)に基づく。年度始めには、法人の全体会議を持ち、全職員に規定の変更や留意点等を周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	生涯研修課程への参加や法人独自の委員会による研修会の実施、事業所単位での勉強会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業者連絡会への参加で、意見交換や勉強会を通して、交流する機会をつくり、サービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時には、ご希望などをお聞きし、安心して生活していただけるように関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時には、ご家族様の意向をお聞きし相談していただける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に加え、主観的、客観的立場に基づいた判断の元、担当ケアマネージャーとの話し合いで最も必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様のこれまでの経験や知識をお聞きし、職員と一緒にいることの出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の報告や受診結果の報告、行事などへの参加の呼びかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の病院受診や、祭り、催し物などへの参加など希望をお聞きしながら外出支援をおこなっている。遠方の友人の方には、電話にて会話をもっていたくようにしている。	デイサービスと共通の広間で食事をするなどで、従来の馴染みの人と声をかけあうなどの交流がみられる。ボランティアの受け入れもしており、馴染みの人たちとの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話や外出支援など、よい関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の施設を訪問し、関わりをもっていけるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人、個人を尊重し、意向や思いをお聞きして一日を過ごしていただけるようにしている。また、個別ケアを実施し、一対一での支援を通して思いや希望などをお聞きしている。	現在は意思疎通困難者はいないので、毎朝「今日の予定は何ですか」と声掛けをして、本人の意向を汲み取り、一日を始めるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別の記録に趣味や習慣など記録しており、職員は把握し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、心身の状態などの観察を行い、看護師やご家族様への報告や連絡を密に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	合同会議やケアカンファレンス会議で情報交換を行っている。ご家族様へは、面会時や電話を入れた時など意見などをお聞きする様にしている。	担当制を決めているが、月1回のカンファレンスを通じて、皆で相談検討している。3カ月ごとの見直しもきちんと実施している。最終チェックはケアマネージャーが行い、適切な支援につながるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や行動・言動など記録し、職員は把握するようにし、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の催し物に出かけたり、ボランティアの受け入れや慰問の方々の受け入れも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週土曜日の買い物や、理髪店など一緒に職員と出かけている。買い物を通して一人一人の力が発揮できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にお聞きした、かかりつけ医や施設の協力医などご本人やご家族様のご希望される医院へ受診している。	1名の方のみ従来からのかかりつけ医だが、後の方は全て協力医による受診となっている。どちらの受診も職員の同行支援であり、結果を家族に電話などで伝え、家族の負担軽減も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が、健康状態の把握に努め、看護業務を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室やご家族様と、連絡や情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の変化が見られたときには、重度化についてご家族様と話し合い、「重度化した場合における対応に係る指針」を作成して説明、同意を頂いている。協力医との連携も行っている。	入居の際には重度化や看取りについての説明を行い、「重度化した場合における対応に係る指針」を渡している。過去1名の看取り経験はあるが、その時々状態に応じて家族や関係者と相談し対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議において、救急救命の講習を受け、心肺蘇生の方法やAEDの使用方も学んだ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、想定を変えての避難訓練を実施している。又、年2回防災訓練を計画し、消防署職員の立会いの元、地域の方々や市役所職員の参加もして頂いている。	月末最終日曜日を訓練日と決めて、夜間やエレベーター使用不能など、いろいろな場合を想定した避難訓練を実施している。訓練の結果と評価を記録し、職員・利用者共に災害への意識付けを行っている。備蓄についても検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議において、接遇研修を行い実践に取り組んでいる。	「接遇の基本」については法人全体の冊子により年2回の研修をしているが、日頃から言葉遣いや服装について注意をし、利用者の尊重やプライバシー確保に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活をしていく中で、個々の方々の意見や希望、不満、悩みをお聞きして、どのようにしていきたいのか、欲しいのか自己にて決定、解決していけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の方々の状態や希望を大切に、メリハリのある生活が送れるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、その日の洋服などお聞きして、ご自分で選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	使い慣れた茶碗や湯のみ、箸を使用している。又、味噌汁作りやお米とぎ・食事の後片付けなど、職員と一緒に楽しんで行っている。	法人全体の一括調理でデイサービスと同じ食事であるが、デイのない日曜日と夕食については、食事づくりやおやつ作りを利用者と共に取り組んでいる。畑の収穫物を独自に追加することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは栄養士が作成しているので、栄養バランス良く摂取できている。水分補給は時間を決めて行っているが、希望があればいつでも提供できるように準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、見守りや介助にて口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用や時間での声掛け、パターンの把握に努め、職員同士の伝達を行っている。トイレでの排泄にむけて支援している。	老健から移ってこられた時にはリハビリパンツであった方が、排泄チェック表でパターン把握に努め、布パンツに移行するなど、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝・夕の体操を日課として、腹部マッサージも含めて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴していただける体制であり、心身の状態や希望に沿って入浴して頂いている。	保養所時代の浴室で常時3人から5人は入浴できる広さがある。毎日沸かしているのので、個々の希望に沿った入浴ができる。椅子を温めるなどの配慮やリフト浴などで入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息して頂いている。ベッドの環境を整えたり、一緒に布団を干したり、シーツを掛けたりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方確認は看護師が行い、説明書には注意し、内容確認を行っている。服薬での状態観察や報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、個々の役割が出来ている。職員は継続して出来るように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や祭りなど外出できる機会を多くもてるように支援している。個々の買い物や所用へ出かけたり、希望にあわせて支援している。	顔のクリームを買いだめしたいとか美容院へ行きたいなど、それぞれの希望に合わせて外出支援をしている。職員数が多いデイサービスの時間帯を利用して、全員で外食に出かける等の外出機会も作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた時には、財布をお渡しし、レジでの支払いをしていただくように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により、電話をかけていただいたり、頂き物を頂いた時やご家族様より届いたお手紙にお礼の電話を入れたり、礼状を送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手芸や壁画など、作成物を飾り、落ち着いた空間作りをしている。季節の草木を活かしたりもして頂いている。	保養所の名残りのまま吹き抜けの明るく広い空間は落ち着いた雰囲気である。椅子をずらりと並べて一人ひとりの席があり、みんなで歌を歌ったりテレビ観戦なども楽しめるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内いたるところに椅子やソファが置かれており、自由に過ごしていただける場がある。一人で過ごされたり、DSご利用様と会話されたり、されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた、たんす、ベッド、掛け軸などお持ちいただき、ご自分の家の様に安心して生活できる居室作りを行っている。	部屋は畳み敷きだが、縁側や広いベランダもあり昔ながらの部屋のつくりは落ち着いた生活ができるようになっている。ベッドや掛け軸、仏壇なども持ち込まれ、自分の部屋として住みやすい場所に工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	言葉掛けで出来ることは多く、つかず離れずの関係を大切にしている。		